

「備え、あつての安心ライフ

最近よく聞く「働けないリスク」。考えれば考えるほど、不安になります。どう備えればよいのでしょうか。

「働けないリスク」に備える保険

人生には、さまざまなリスクがあります。たとえば「死亡リスク」。喪失の悲しみなどのほかに、収入を失う、葬儀費用がかかるなどの経済的損失を受けます。また、「病気やケガのリスク」や「介護リスク」、「長生きリスク」などのリスクもあります。そして、このようなリスクへの経済的な備えとして、さまざまな保険が活用されています(左ページの図参照)。

そんななか最近、「働けないリスク」という言葉をよく耳にするようになりました。「働けないリスク」とは病気やケガで仕事ができなくなることで、「病気やケガのリスク」とは何が違うのでしょうか。

病気やケガで働けなくなった場合、医療費自体は、公的健康保険で自己負担が高額になると払い戻してくれる「高額療養費制度」もありますし、民間の医療保険で備えることもできます。ですが医療費以外にも、家族の生活費や住宅ローン、子どもの教育費などが必要で、こうした生活費全般までを想定したものが「働けないリスク」です。その備えとして、5年ほど前から「所得補償保険」(「就業不能保険」とも呼ばれる)が登場し、注目を集めるようになってきました。

利用する。それでも足りない分を個人で用意する、という考え方がよいと思います。

働けないときを支える公的な制度には、「傷病手当金」があります。

傷病手当金は、会社員の方が病気やケガで仕事を休んだ場合、給料の約3分の2が、最大1年半支払われる制度です(国民健康保険には、傷病手当金の制度はありません)。

また、病気やケガの状態が重篤なときは、働けない期間が1年半を超えたら「障害年金」が受け取れるようになります。

こうした制度を利用することで、生活を底支えすることができるようになります。

そのうえで保険を考えると、所得補償保険にはチェックしてほしいことがあります。

たとえば、働けるか、働けないかは、どのように判断されるのか。どんな病気でどんな場合に保険金が支給されるのか、保険会社によってさまざまです。よく確認しましょう。

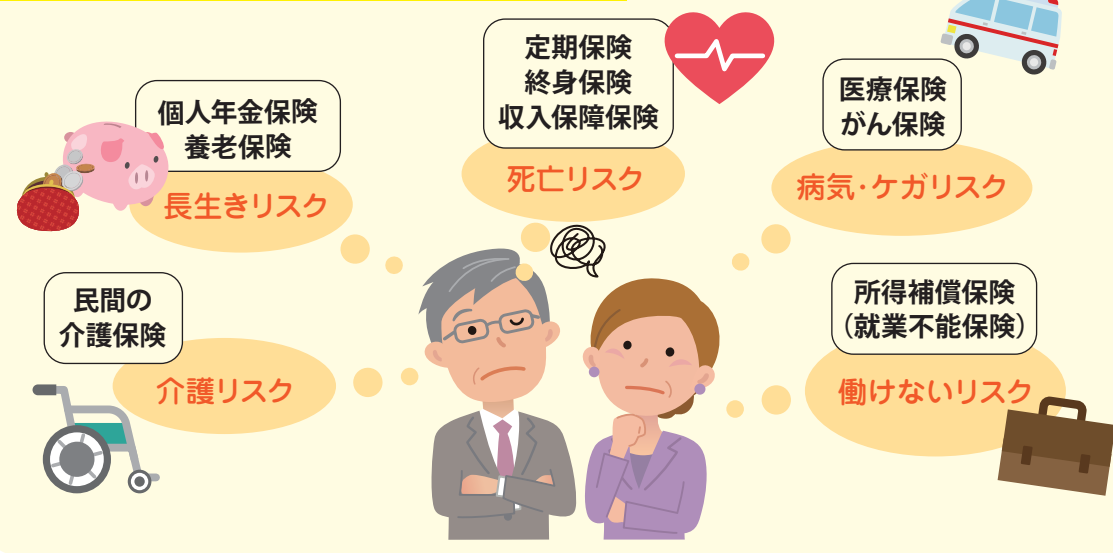
下の図にもあるように、私たちの生活はたくさんリスクに囲まれています。きちんと考える方ほど、不安になってしまいがちです。

そんなときは、ここでご紹介したような各種のリスクに備える公的の制度や保険について、詳しく調べてみることをお勧めします。また、すでに加入している保険の内容を再確認したり、わが家の貯蓄を見直すことも大切です。

リスクは避けて通ることはできませんが、しっかりと備えを行い、将来にわたって安心して毎日を送れるようにしたいですね。

人生に不安やリスクはつきもの。
公的の制度や保険をかしこく利用し備えよう

さまざまなリスクとその備えとなる保険



所得補償保険と収入保障保険の違い

	所得補償保険	収入保障保険
保険金を受け取るのはどなたとき?	被保険者が働けなくなったとき	被保険者が亡くなった(高度障害を負った)とき
保険金を受け取るのは誰?	被保険者本人	遺族(家族)
補償・保障額は?	被保険者の収入の60%程度	収入に関係なく、保険金を設定できる
保険の特徴	・掛け捨てが多い ・満期まで保険金の支払いがなかった場合、一時金が受け取れるタイプもある	・いつ亡くなっても毎月の保険金額は変わらないので、遅く亡くなるほど受け取る保険金総額が減少 ・保険料が一般の生命保険より安い
どんな方に向いてる?	自営業など公的な休業補償が少ない方	保険料を抑えて死亡リスクに備えたい方
販売会社	損害保険会社	生命保険会社

所得補償保険と収入保障保険

「所得補償保険」は、入院などで一家の稼ぎ手が働けなくなったときに、あらかじめ決めた保険金を毎月お給料のように受け取る保険です。加入できるのは働いて収入のある方で、収入の60%程度が補償されます。ほとんどが掛け捨て保険ですが、健康で満期まで一度も保険金を受け取らなかった方に一時金が出るタイプもあります。

なお、所得補償保険と名前がよく似たものに、「収入保障保険」があります。紛らわしいのですが、内容はまったく違います。収入保障保険は死亡リスクに対する備えで、被保険者の死亡後(高度障害を負った時)、加入時に決めた保険金が毎月支払われるものです(一時金が出るタイプもあります)。

保険金を受け取る人も異なり、所得補償保険は保険をかけた本人で、収入保障保険は遺族です(上の表参照)。ご注意ください。

公的の制度と保険を上手に利用

では、「働けないリスク」にはどう備えればよいのでしょうか。まずは、公的な制度をもれなく

「働けないリスク」にどう備える?

生活経済ジャーナリスト
森本光由希



もりもと みつひこ 森本 光由希さんプロフィール

生活経済ジャーナリスト、ファイナンシャルプランナー。暮らしに役立つ金融・経済の情報をメインテーマとして、幅広い分野で取材執筆活動を行っている。生活に根差したお金の問題を「生活者と同じ目線・経済感覚」でわかりやすく、使える情報として発信することがモットー。



メールマガジン会員募集中!

保険に関する身近な情報はじめ、提携施設の期間限定キャンペーンなど、お得な情報を充実したラインナップでお届けします! ご登録がお済みでない方はこの機会にご登録ください。

アドレス https://www.yuseifukushi.or.jp/jp_member/mailmag/

スマホは、
こちら

